
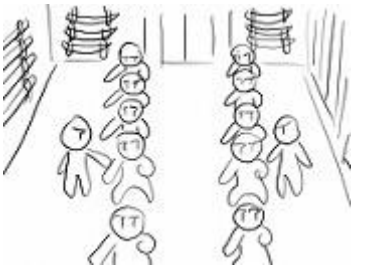

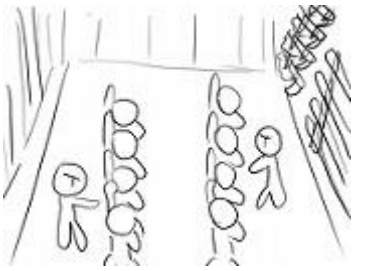


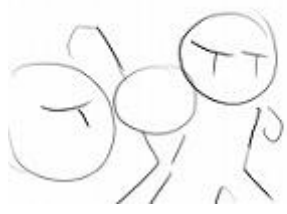


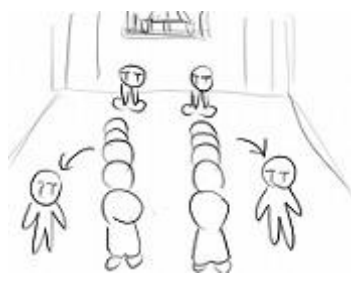


場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
1		関東入間屋一家の外観。 純和風の二階建て。 敷地は広くないが、立派な庭園がある。 門前で掃除をしている若い衆。 「入間屋旅館」と看板がかかっている。 字幕「関東入間屋一家」	
2		入間屋一家武道場。 入間川堅太郎（37）と清子（18〜）が、若い衆と共に武道稽古をしている。 堅太郎と清子が回りながら基本技の反復練習。	
3		堅太郎と清子が回りながら基本技の反復練習。	
4		堅太郎と清子が回りながら基本技の反復練習。	
5		堅太郎と清子が回りながら基本技の反復練習。	

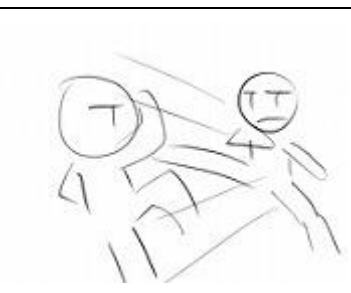


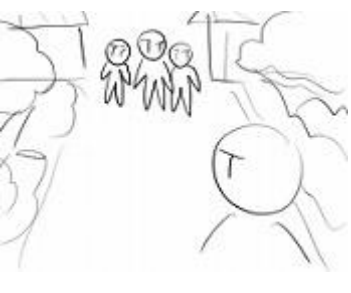

場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
6		堅太郎と清子が相手になった約束組手。	
7		堅太郎と清子が相手になった約束組手。	
8		堅太郎と清子が相手になった約束組手。	
9		堅太郎と清子が相手になった約束組手。	
10		稽古を終えた一同が正座して一礼。 堅太郎「今日は終わりにしましょう。解散」 一同「押忍！」 若い衆達が各々解散していく。	

場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
11		堅太郎「たける、遅いな」 清子「寄り道かしら」 堅太郎「一秒でも早く家に帰りたいがる奴だぞ」 清子「そうね……」	
12		堅太郎は若頭の奥富頼助(25)を呼び止める。 堅太郎「カシラ」 奥富「へい」 堅太郎「様子を見てくれますか」 奥富「へい」 奥富が道場から出ていく。	
13		堅太郎「ところで、たまには手合わせしてみないか？」 清子「受けて立つわ」	
14		堅太郎と清子が構える。	
15		堅太郎の突き、蹴り。	

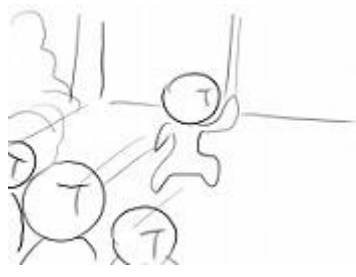




場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
16		清子の突き、蹴り。	
17		堅太郎と清子の一進一退の攻防が続く。	
18		入間屋一家玄関先。 若い衆が掃除している。 奥富が門前の様子を見ている。 奥富「おう、もうここはいいから、裏やってくれ」 若い衆が会釈して裏に向かう。	
19		たけるが、かんなときりおを連れて門の外から入ってくる。 たける「ただいま」 かんな「こんにちは」 きりお「こんにちは」 奥富「お帰りなさい」	
20		奥富「坊ちゃんが遅いから親分と姐さんが心配してるよ」 たける「坊ちゃんってやめてよ」 奥富「坊ちゃんは坊ちゃんでしょう。ほら、上がって、ただいま言ってきたな」 たける「うん」	



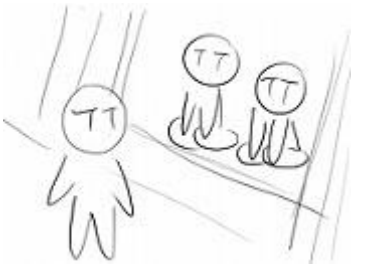


場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
21		たける「あのね、向こうにお客さん？とかがいるんだ」 奥富「お客さん？とかってなんだい。入ってもらえ」	
22		たけるが門の外に向く。 たける「入ってきて！」	
23		お凜様、牙吉、飛丸、達次郎、やすお達と子供達が入ってくる。 奥富「ずいぶん大勢だな。っていうか、あの変な格好のは？」 たける「神様だよ」	
24		奥富「まさか、お祭りの仮装だろ？ 神様なんて抛り所を求める迷信だよ」 たける「本当に神様なんだ」	
25		かな「いじめっ子をやっつけてくれたの」 きりお「いじめっ子も、熊の怪人から命を助けてもらったんだ」 やすお達は視線をそらしている。	


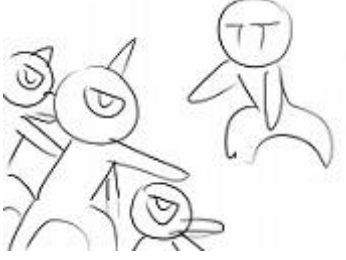
場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
26		奥富「ちょっと、話が見えないけど、待ってて」 奥富が中に駆けていく。	
27		お凜様「子供はええ。素直に信じてくれるからのう」 牙吉、飛丸、達次郎が無言でうなづく。	
28		堅太郎と清子が奥富に連れられ玄関に出てくる。 たける「ただいま」 かんな「こんにちは」 きりお「こんにちは」 清子とお凜様の目が合う。	
29		清子「あら……」(お凜様の可憐さに感嘆)	
30		お凜様がきよとんとする。	






場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
31		お凜様が一步前に進み出る。 三度笠と道中合羽を脱いで脇に抱える。 お凜様「一家の主さんとお見受けします」 堅太郎「ええ」	
32		お凜様がさらに一步前に進み出て、三度笠と道中合羽を置いて、刀を帯から抜いて後ろ手に持ち、右手を前に差し出す。 牙吉、飛丸、達次郎も同じようにする。 お凜様「ご当家軒下の神儀に失礼ですがお控え下さい」	
33		堅太郎と清子が目を見合わせる。 奥富「仁義ですって」 堅太郎「お受けしましょう」 堅太郎と清子が正座して両手を床について控える。	
34		奥富が一步前に出て中腰になり、右手を前に差し出す。 奥富「ありがとうございます。軒下の仁義に手前、控えさせて頂きます」	
35		お凜様「早速のお控えありがとうございます。手前、ご当家軒下三尺三寸借り受けまして神儀を發します」	





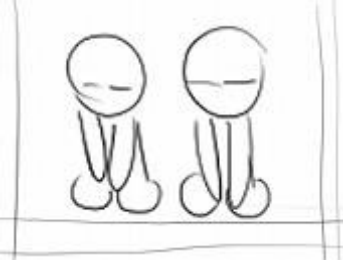
場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
36		奥富「手前、一家の若い者でございます。どうぞお控えなさってください」 お凜様「手前、旅中の者です。どうぞお兄いさんの方からお控え下さい」	
37		奥富「ありがとうございます。再三のお言葉、逆意とは心得ますが、手前、これにて控えさせていただきます」	
38		お凜様「早速のお控えありがとうございます。手前、慌て者ゆえ、言葉の後先間違えましたら真っ平ご容赦願います。向かいます主さん奥さん、並びにご一党さんにおかれましては、初のお目見えと心得ます」	
39		お凜様「手前、生国は関東武州でございます。武州と申しましてもいささか広大でございます。武州は、清き流れの入間川を遡りまして、秩父山地の奥の奥、まさに前人未到の禁足地、秩父鬼姫山でございます」	
40		お凜様「縁あって古よりの務めとしますは、武州全土東西南北村落鎮守の大元締め、武州総鎮守の三代目を継承致します」	

場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
41		お凜様「名乗りの儀、武州総鎮守秩父鬼姫山三代目、花吹雪のお凜、通称、鬼神童女と申します」	
42		牙吉「同じく、手前、花吹雪のお凜に従います若い者でございます。名乗りの儀は遠吠えの牙吉と申します」 飛丸「同じく、手前、花吹雪のお凜に従います若い者でございます。名乗りの儀は夜鳴きの飛丸と申します」	
43		お凜様「合わせまして通称、鬼姫山三神と申します。お見かけの通り、未だ修行中の未熟者でございます。以後、見苦しき面体お見知り置かれまして万事万端宜しくお頼み申し上げます」	
44		達次郎「最後の神儀となりまして失礼致します。手前、生国は関東上州でございます。上州は、奇岩も荒々しい甘楽地方は妙義でございます」	
45		達次郎「縁持ちまして鎮守神と仰ぎますは稲光の裂太郎でございます。訳あって、手前、稲光の裂太郎より鎮守神を継承致しております」	

場面：神儀口上

番号	画面	内容・台詞	時間
46		達次郎「名乗りの儀、空っ風の達次郎と申します。昨今、未熟の駆け出し者。以後、宜しくお頼み申し上げます」	
47		奥富「ありがとうございます。ご丁寧なお言葉遅れまして甚だ失礼致します。手前、当関東入間屋一家六代目入間川堅太郎に従います若い者でございます。稼業、平凡ながら旅館の真似事を致しております」	
48		奥富「名乗りの儀は奥富頼助。稼業未熟の駆け出し者でございます。以後、万事万端宜しくお頼み申し上げます」	
49		お凜様「ありがとうございます。お手をお上げ下さい」 奥富「そちらからお手をお上げなさって」 お凜様「ではご一緒に」 奥富「ありがとうございました」 お凜様達と奥富が手を上げる。	
50		堅太郎「入間川堅太郎です」 清子「清子です」 堅太郎と清子がお辞儀する。 堅太郎「息子がお世話になったそうですが、立ち話もなんですので、どうぞお上がり下さい」	